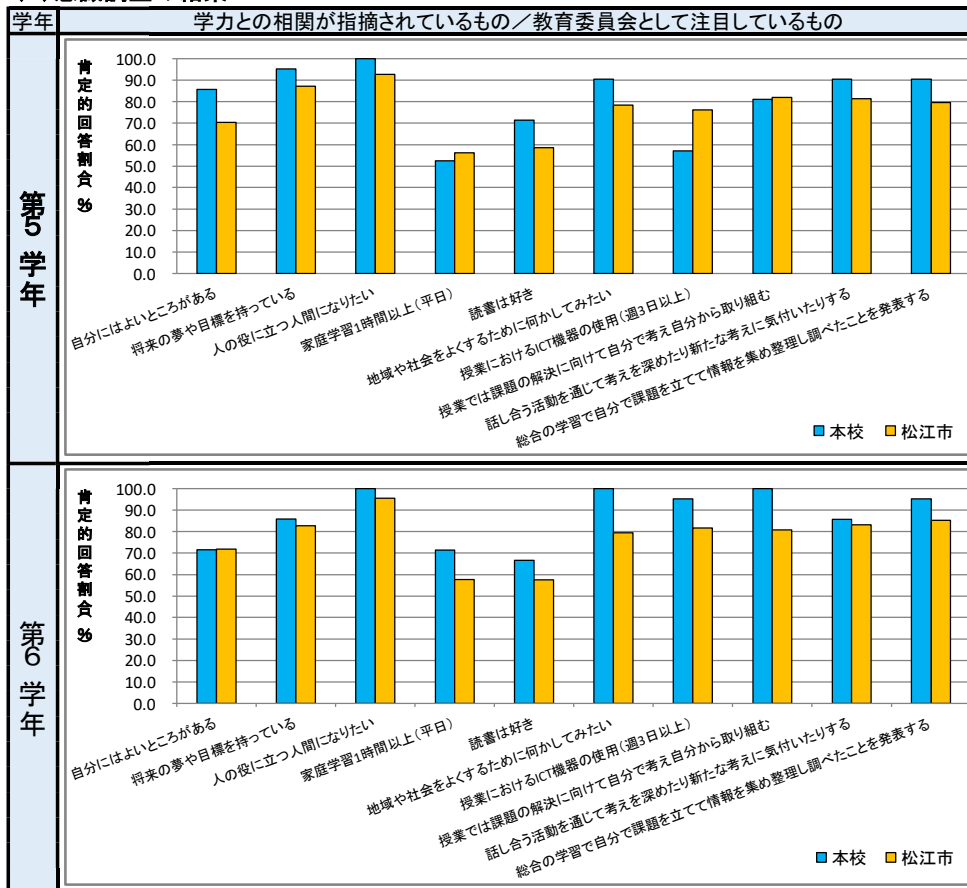


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(●)
第5学年	国語	成果 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができている。 ○意図に応じて、質問を工夫することができている。 課題 ●筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がある。	・自分の意図に応じて話したり、聞いたりすることはできるが、筆者や作者など、他人が書いたり話したりすることを正確に読み取ることができていない。学級内での話し合いや意見の交換を増やし、相手が何を言おうとしているのかつかむことができるようにしていきたい。
	算数	成果 ○単純な計算は、できる子が多かった。 ○公式に当てはめれば解けるものは、できていた。 課題 ●式の意味を理解して、逆算するなど工夫して計算しなければならないものに間違いが多い。 ●図形の問題の正当率が低い。	・普段から片付けの苦手な子が多く、空間認知の力が弱いように思う。ロッカーや机の中の片付けを丁寧にさせることで、空間認知の力をつけていきたい。 ・記憶のできるもの、単純計算はできるようになったので、段階を追って考えなければならない問題に取り組む機会を作る。
第6学年	国語	成果 ○全国学力テストでは、「話し合いの目的や意味を理解して参加すること」が課題であった。そこで、ねらいを明確にした話し合いを意識して指導を行った結果、「グループで話し合う」場面における学習状況の向上がみられた。 ○図表を活用し、自分の考えを分かりやすく伝えるための書き方を工夫する姿勢が定着しつつある。 課題 ●「文と文の接続の関係を理解している。」という点について課題がある。 ●説明文を読む項目に関して、理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが苦手である児童の割合が大きい。	・一文の中に様々な内容を入れた文章を書く傾向がある。一文の中には、一つの説明を入れ、つなぐ際には、接続詞を用いて書く活動を取り入れていく。 ・説明文の学習の際には、話題と筆者の主張を読み取るだけでなく、内容の要点を整理してまとめていく必要がある。また、自分の経験などから筆者の考えに共感的に読んだり、批判的に読んだりすることで自分の考えをもたせる。
	算数	成果 ○数と計算の領域のほとんどの問題の正答率が高かった。 ○線対称な図形の対応する点について理解できている児童が多かった。 課題 ●図形の領域の中で、面積と体積の正答率が全体的に低かった。また、縮尺を使って縮図に表すときの長さを求めることについての理解が低かった。 ●分数の乗法(分数倍)を適用して、式の意味を説明する問題に課題があった。	・長さや面積、体積に関わる問題については、全体的に理解ができていない。特に量感をもつことができていないと感じる。指導に当たっては、具体物や半具体物を使って量感を高めていく必要がある。 ・分数の乗法の指導の際には、線分図や数直線を使って可視化し、元になる量や比べる量を明らかにして求めるようにしていく。

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○：強み/伸ばしたい点 について
課題●：弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

- 自己肯定感が高く、人の役に立つ人間になりたいと考えている。
- 読書量が決定的に少ない。文章に親しんでいないので、文章の理解ができず、問題に取り組めない。また、授業中は学習するが、家庭では宿題以外しない子が半数に上る。

【第6学年】

- 地域や社会をよくするために何かをしてみたい児童の割合が高い。
- 授業中には、挙手して発言する児童が増えたり、協力して課題解決に取り組んだりすることができる。
- 自分にはよいところがあると答えた児童が少なく、自己肯定感が低いと考えられる。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	21	名
第6学年	21	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示